

⑥ 自然環境にかかわる法指定状況

a) 自然公園

遠州灘沿岸では、沿岸の約8割の区間が自然公園に指定されており、三河湾国定公園、渥美半島県立自然公園、浜名湖県立自然公園、御前崎遠州灘県立自然公園が広がっている。

三河湾国定公園は、知多半島から渥美半島にかけての三河湾周辺14市町、9,464haの区域に指定（昭和33年4月）されており、区域内の太平洋岸は海食崖が発達し、雄大な景観を形成していることで知られている。沿岸は伊良湖から豊橋市の中央付近までの沖合1kmから海岸の森林付近までの範囲が指定を受けており、陸域のほとんどは特別地域に、海域は普通地域の指定となっている。



伊良湖岬灯台



黒河湿地

渥美半島では、国定公園の指定区域を除く大部分が渥美半島県立自然公園に指定（昭和43年5月）されており、中でも特別地域に指定されている田原町の黒河湿地が著名である。

浜名湖と遠州灘との接点である今切口周辺より西方は、雄大な浜名湖を有することで浜名湖県立自然公園に指定（昭和25年5月）されているほか、御前崎から天竜川にかけては、白砂青松の自然と景観が続く特色のある海岸で、御前崎遠州灘県立自然公園に指定（昭和43年12月）されている。

なお、遠州灘全域がアカウミガメの主要な産卵地であることから、日本の重要湿地500のうちの1つとして選定されている。



浜名湖県立自然公園



御前崎遠州灘
県立自然公園

⑥ 自然環境にかかわる法指定状況

a) 自然公園

遠州灘沿岸では、沿岸の約8割の区間が自然公園に指定されており、三河湾国定公園（昭和33年4月指定）、渥美半島県立自然公園（昭和43年5月指定）、浜名湖県立自然公園（昭和25年5月指定）、御前崎遠州灘県立自然公園（昭和43年12月指定）が広がっている。

三河湾国定公園は、知多半島から渥美半島にかけての三河湾周辺9市町、9,457haの区域に指定（昭和33年4月、平成18年1月一部変更）されており、区域内の太平洋岸は海食崖が発達し、雄大な景観を形成していることで知られている。沿岸は伊良湖から豊橋市の中央付近までの沖合1kmから海岸の森林付近までの範囲が指定を受けており、陸域のほとんどは特別地域に、海域は普通地域の指定となっている。



伊良湖岬灯台



黒河湿地

渥美半島では、国定公園の指定区域を除く大部分が渥美半島県立自然公園に指定（昭和43年5月）されており、中でも特別地域に指定されている田原市の黒河湿地が著名である。

なお、遠州灘全域がアカウミガメの主要な産卵地であることから、日本の重要湿地500のうちの1つとして選定されている。



浜名湖県立自然公園



御前崎遠州灘
県立自然公園



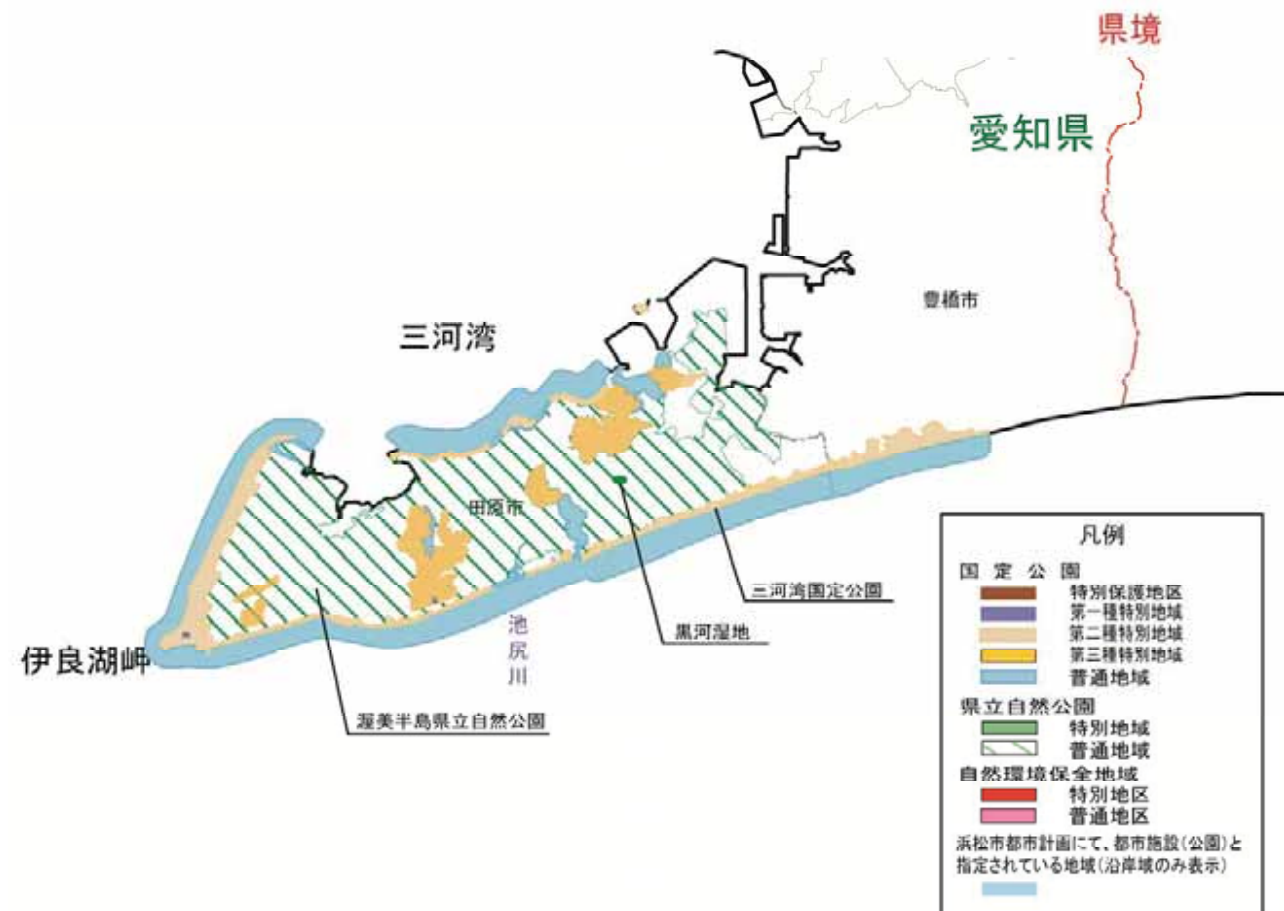
出典：愛知県土地利用基本計画図

図 1.1.6 遠州灘沿岸の自然公園の法指定状況図



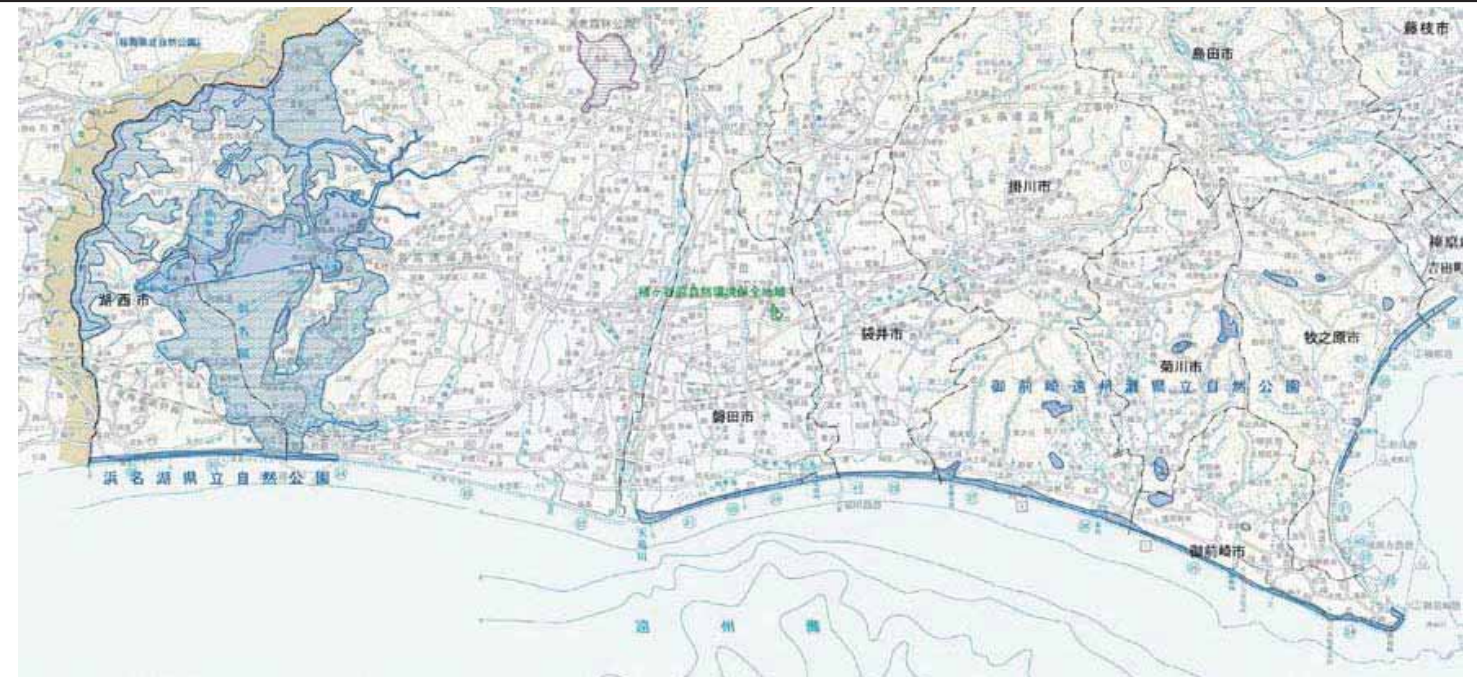
出典：「静岡県自然公園・自然環境保全地域配置図」、「西遠広域都市計画図」(静岡県)

変更記載内容 (案)



※行政区画は、「国土数値情報 行政区画データ (平成 26 年度)」

図 1.1.6 遠州灘沿岸の自然公園の法指定状況図



出典：愛知県土地利用基本計画図、静岡県自然公園・自然環境保全地域配置図

b) 保安林

遠州灘沿岸の保安林は、ほぼ沿岸全体に広がる。沿岸西部の海岸背後には、ハマヒサカキ・ネズミモチ・ツバキ・トベラ・シャリンバイ等の樹種で構成される森林が連なっている。また、沿岸東部の大部分は、クロマツ林を中心に構成されている保安林が、沿岸に連なる砂浜や砂丘の背後に帯状に分布している。

豊橋市から田原町の間は、海食崖となっている箇所が多いため、土砂の流出の防備等を目的とした保安林が多くなっている。一方、赤羽根町から渥美町の間は、比高差が少ない海岸線であるため、背後にある住宅や耕地を潮・風・飛砂害から守る目的とした保安林が多くなっている。

海食崖が形成されている御前崎海岸では、崖斜面に低木化したクロマツ、トベラ、ヒメユズリハなどが海岸林を構成しており、いずれも海側からの風、潮、飛砂を防止する目的とした保安林が多くなっている。



b) 保安林

遠州灘沿岸の海岸背後の森林は、大部分が海側からの風、潮、飛砂の防止を目的とした保安林に指定されており、海岸防災林と呼ばれている。

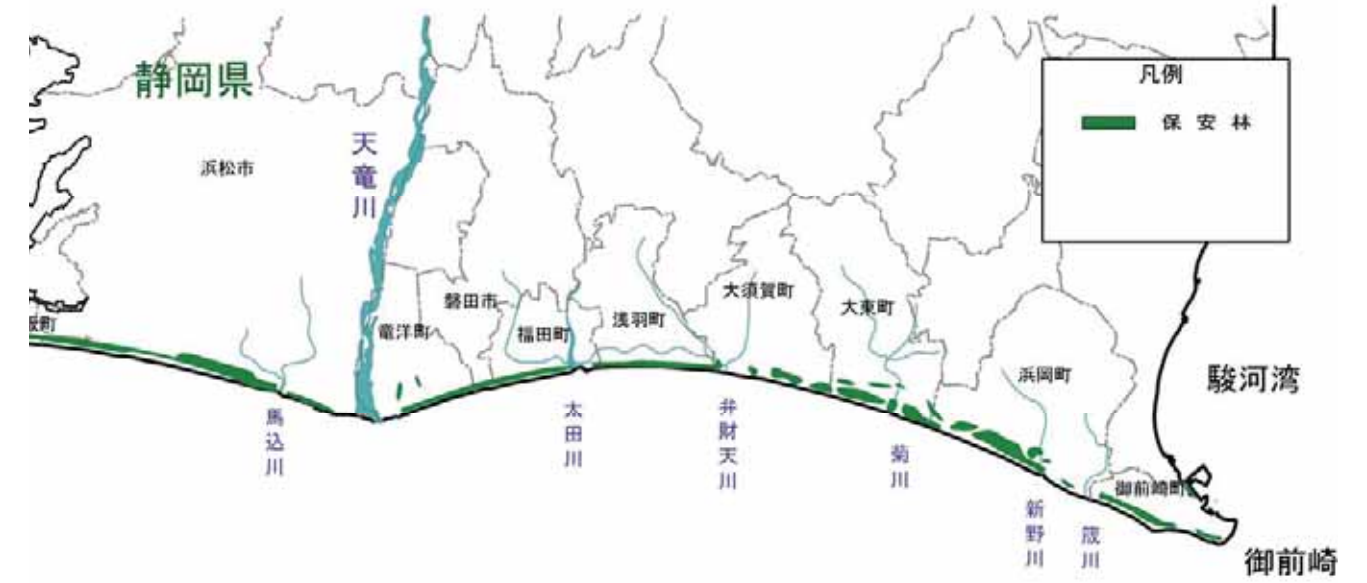
沿岸西部の海岸背後には、ハマヒサカキ・ネズミモチ・ツバキ・トベラ・シャリンバイ等の樹種で構成される森林が連なっている。豊橋市から田原市高松町の間は、海食崖となっている箇所が多いため、土砂の流出の防備等を目的とした保安林が多くなっている。一方、田原市赤羽根町から伊良湖町の間は、比高差が少ない海岸線であるため、背後にある住宅や耕地を潮・風・飛砂害から守る目的とした保安林が多くなっている。

また、沿岸東部では、海岸防災林は、クロマツを中心に構成されており、沿岸に連なる砂浜や砂丘の背後に、海側から内陸側に向かって一線堤、二線堤、三線堤と複数列の連続した帯状で分布している。





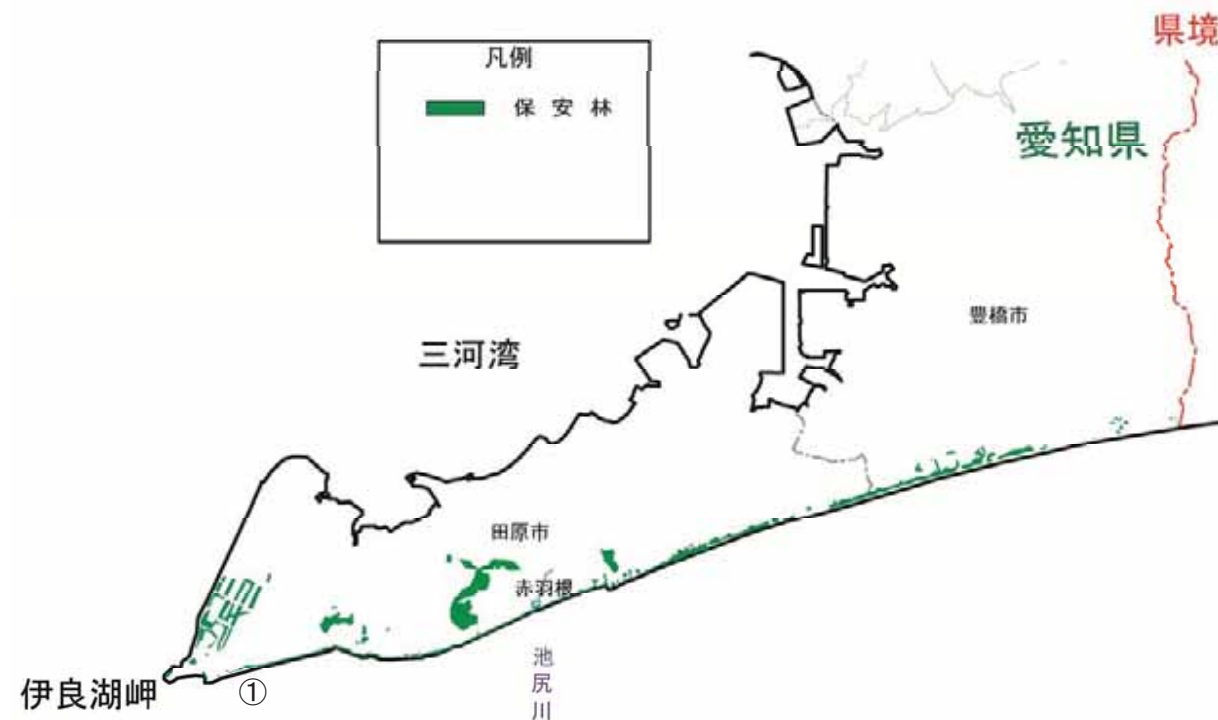
出典：愛知県土地利用基本計画図



出典：「静岡県保安林配備図」

図 1.1.7 遠州灘沿岸の保安林分布図

変更記載内容（案）



出典：「愛知県土地利用規制図」、「静岡県海岸防災林における森林整備方針」

※行政区画は、「国土数値情報 行政区画データ（平成26年度）」による。



図 1.1.7 遠州灘沿岸の保安林分布図

(2) 社会的特性

① 沿岸の歴史と文化

遠州灘沿岸では、江戸時代に経済活動が活発になると、江戸・大坂を中心に大量の物資が移動するようになり、それに呼応して港や航路が整備されてきた。遠州灘にもかつてはいくつかの港があったが、元禄の大地震で港が埋ったため、海上交通の拠点としての役割を失ったという歴史もある。また、伊勢街道にまつわる東西文化の交流の歴史や、自然に対する人々の信仰等による文化の形成が各地で見られる。

愛知県域の沿岸にはかつて、東海道白須賀から分かれて、渥美半島の太平洋岸を伊良湖まで通じていた伊勢街道があった。熊野詣でや伊勢詣での人々でこの街道は賑わったとされているが、天災地変がその姿を変えたといわれている。伊勢街道が盛んなのは16世紀頃までで、年々の海岸侵食により道は高台に移動し、坂道が多い道となった。特に、宝永4年(1707)の大地震で、古来の街道はほとんど海中に没し、安政元年(1854年)の大地震では「片浜十三里皆がけくづる」と地元の記録にある。このように古くから続く海岸侵食の歴史の中で、沿岸では海岸付近の半農半漁の生活から次第に海岸から離れた生活環境へ推移し、昭和43年の豊川用水の完成から背後の市町に豊かな農業経営基盤が形成された。現在、海食崖、海岸林が自然の脅威からの盾となつてはいるものの、潜在的に地域住民の自然への畏れは根強い。

なお、伊勢街道等まつわる史跡、言い伝えなどとして以下のものが挙げられる。

○東大寺の鎌倉再建瓦：鎌倉時代に東大寺大仏殿再建時の瓦を焼いた窯として、国の史跡に指定された伊良湖東大寺瓦窯跡から出土。古くから伊良湖が海路により伊勢・大和につながる東西文化の交流点であったことがうかがえる。

○東観音寺：行基上人の開創といわれる寺院で、たび重なる海岸の侵食により内陸部に移転し、現在に至る。

○万葉の歌碑：「うつせみの命を惜しみ浪にぬれ 伊良真の島の玉藻刈り食す」と詠った麻績王の歌碑。麻績王は遠く都を追われ、伊良湖の浜に身を寄せていたが、それを憐れむ里人の思いやりに応えた歌で、潮騒の浜にふさわしい万葉の名歌といわれている。

○椰子の実の記念碑：柳田国男の「遊海島記」の一文にヒントを得て、島崎藤村が「名もしらぬ遠き島より椰子の実ひとつ」と歌った記念碑。

この他、渥美町の伝説として、鸚鵡石の由来(歌を歌うと歌声が返ってくるといわれている石。ただし、由来の元となった大蛇の娘がこの石の上で形見の笛を吹いて亡くなったことから、笛の音だけは返ってこないとされている)、海に沈んだ小塩津、海で拾ったおじぞうさんなど表浜に関連するものもある。



伊良湖東大寺瓦窯跡 (渥美町)



東大寺の鎌倉再建瓦 (渥美町)



万葉の歌碑 (渥美町)

(2) 社会的特性

① 沿岸の歴史と文化

遠州灘沿岸では、江戸時代に経済活動が活発になると、江戸・大坂を中心に大量の物資が移動するようになり、それに呼応して港や航路が整備されてきた。遠州灘にもかつてはいくつかの港があったが、元禄の大地震で港が埋ったため、海上交通の拠点としての役割を失ったという歴史もある。また、伊勢街道にまつわる東西文化の交流の歴史や、自然に対する人々の信仰等による文化の形成が各地で見られる。

愛知県域の沿岸にはかつて、東海道白須賀から分かれて、渥美半島の太平洋岸を伊良湖まで通じていた伊勢街道があった。熊野詣でや伊勢詣での人々でこの街道は賑わったとされているが、天災地変がその姿を変えたといわれている。伊勢街道が盛んなのは16世紀頃までで、年々の海岸侵食により道は高台に移動し、坂道が多い道となった。特に、宝永4年(1707)の大地震で、古来の街道はほとんど海中に没し、安政元年(1854年)の大地震では「片浜十三里皆がけくづる」と地元の記録にある。また、田原市の堀切地区では、1854年の安政東海地震で津波被害を受けた後、貝殻を積み上げた『ぼた』と呼ばれる津波よけの堤防を築き、津波に備えてきた歴史がある。



『貝殻“ぼた”』(田原市堀切)

このように古くから続く海岸侵食の歴史の中で、沿岸では海岸付近の半農半漁の生活から次第に海岸から離れた生活環境へ推移し、昭和43年の豊川用水の完成から背後の市町に豊かな農業経営基盤が形成された。現在、海食崖、海岸林が自然の脅威からの盾となつてはいるものの、潜在的に地域住民の自然への畏れは根強い。なお、伊勢街道等まつわる史跡、言い伝えなどとして以下のものが挙げられる。

○東大寺の鎌倉再建瓦：鎌倉時代に東大寺大仏殿再建時の瓦を焼いた窯として、国の史跡に指定された伊良湖東大寺瓦窯跡から出土。古くから伊良湖が海路により伊勢・大和につながる東西文化の交流点であったことがうかがえる。

○東観音寺：行基上人の開創といわれる寺院で、たび重なる海岸の侵食により内陸部に移転し、現在に至る。

○万葉の歌碑：「うつせみの命を惜しみ浪にぬれ 伊良真の島の玉藻刈り食す」と詠った麻績王の歌碑。麻績王は遠く都を追われ、伊良湖の浜に身を寄せていたが、それを憐れむ里人の思いやりに応えた歌で、潮騒の浜にふさわしい万葉の名歌といわれている。

○椰子の実の記念碑：柳田国男の「遊海島記」の一文にヒントを得て、島崎藤村が「名もしらぬ遠き島より椰子の実ひとつ」と歌った記念碑。

この他、田原市(伊川津町)の伝説として、鸚鵡石の由来(歌を歌うと歌声が返ってくるといわれている石。ただし、由来の元となった大蛇の娘がこの石の上で形見の笛を吹いて亡くなったことから、笛の音だけは返ってこないとされている)、海に沈んだ小塩津、海で拾ったおじぞうさんなど表浜に関連するものもある。



伊良湖東大寺瓦窯跡 (田原市伊良湖町)



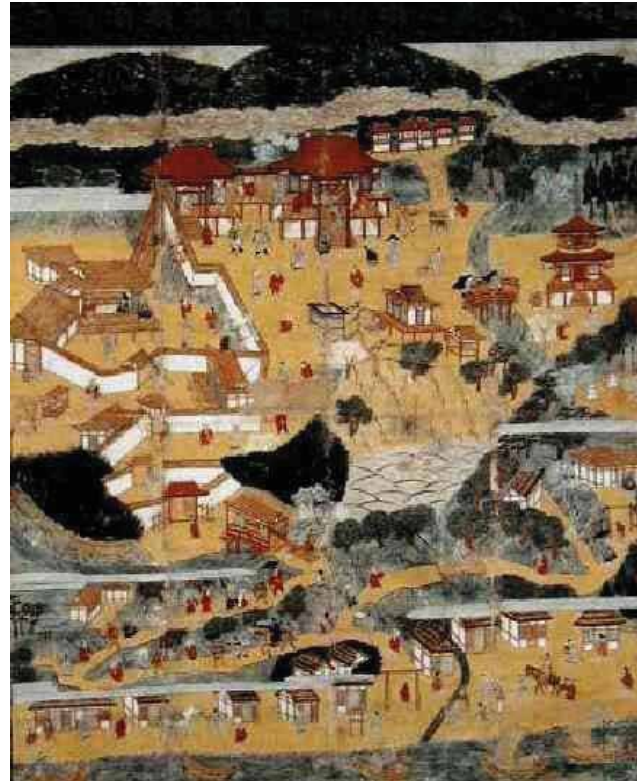
東大寺の鎌倉再建瓦



万葉の歌碑 (田原市伊良湖)



椰子の実の記念碑（渥美町）



かつての伊勢街道（東観音寺）



東観音寺の多宝塔（豊橋市）

静岡県域の浜名湖今切口は、1498年(明応7年)の大地震の津波により地形的大変化が起こり、湖口が開いて遠州灘とつながり、海水が本格的に入るようになり形成された。その後の数百年の間、地震や津波、台風、さらに明治以降の開港等により変化を繰り返し、昭和28年の台風13号では、浜名湖地域に大被害を及ぼしたため、今切口の固定化工事が行われ、現在のような姿になった。

また、悠々たる自然の営みと、自然に対する沿岸住民の関いの歴史から生まれた白砂青松の景観は、地域の誇りでもある。このほか沿岸には、古くから『常世信仰』『漂着信仰』と言われる海への信仰が息づいている。これは、海の彼方に“常世”があり、海水・波・砂や漂着物などは常世の神の乗り移ったものとして崇めるものである。こうした海にまつわる史跡、言い伝えとして以下のものが挙げられる。

○亀塚：福田町観音寺。亀の死体を祀っている。この他、駒形神社などの漂着信仰の神社も多い。

○浜おり：海水や浜辺の砂・小石を持ち帰り、祠に敷いたり屋敷を清めるもの

○浜垢離はまごり：祭りなどに際し、参加者が海に入り心身を清めるもの

※浜垢離の行われる主な祭り

見付天神裸祭（磐田市）： 国指定重要無形民俗文化財

八坂神社の祇園囃子と祭礼行事（大東町）： 県指定無形民俗文化財

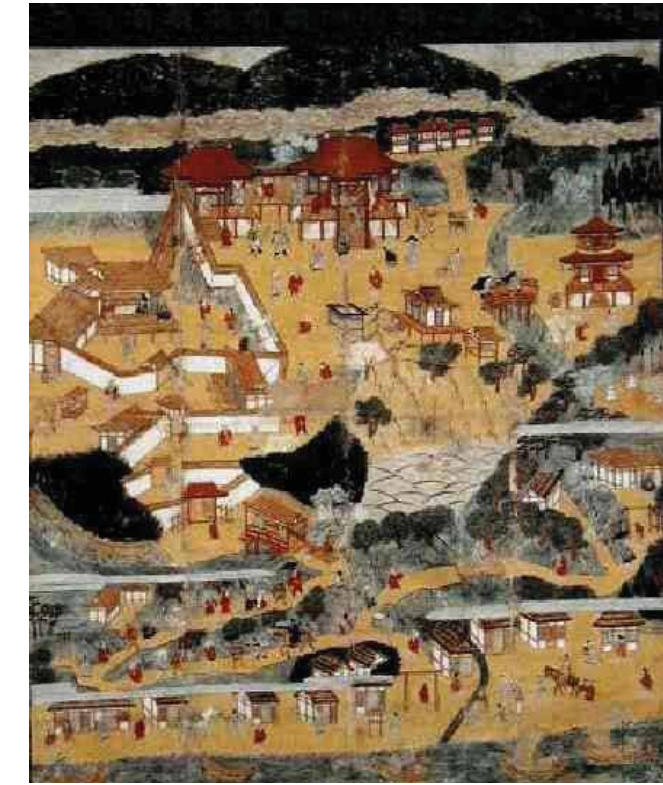
○命山：浜から砂を運び大きな砂山を築き、津波や高潮が押し寄せてきたときには、この砂山に逃げ上がり身を守った。古来より津波や高潮による海岸災害を度々引き起こし、沿岸の住民を脅かしてきたことから、先人たちは「お助け山」とも呼び、山が低くならないように大切に守ってきた。



椰子の実の記念碑（田原市日出町）



東観音寺の多宝塔（豊橋市）



かつての伊勢街道（東観音寺）

静岡県域の浜名湖今切口は、1498年(明応7年)の大地震の津波により地形的大変化が起こり、湖口が開いて遠州灘とつながり、海水が本格的に入るようになり形成された。その後の数百年の間、地震や津波、台風、さらに明治以降の開港等により変化を繰り返し、昭和28年の台風13号では、浜名湖地域に大被害を及ぼしたため、今切口の固定化工事が行われ、現在のような姿になった。

また、悠々たる自然の営みと、自然に対する沿岸住民の関いの歴史から生まれた白砂青松の景観は、地域の誇りでもある。このほか沿岸には、古くから『常世信仰』『漂着信仰』と言われる海への信仰が息づいている。これは、海の彼方に“常世”があり、海水・波・砂や漂着物などは常世の神の乗り移ったものとして崇めるものであり、例えば、海水や浜辺の砂・小石を持ち帰り、祠に敷いたり屋敷を清めたという。

こうした海にまつわる史跡、言い伝えとして以下のものが挙げられる。

○亀塚：福田町観音寺。亀の死体を祀っている。この他、駒形神社などの漂着信仰の神社も多い。

○浜おり：海水や浜辺の砂・小石を持ち帰り、祠に敷いたり屋敷を清めるもの

○浜垢離はまごり：祭りなどに際し、参加者が海に入り心身を清めるもの

※浜垢離の行われる主な祭り

見付天神裸祭（磐田市）： 国指定重要無形民俗文化財

八坂神社の祇園囃子と祭礼行事（掛川市）： 県指定無形民俗文化財

○命山：浜から砂を運び大きな砂山を築き、津波や高潮が押し寄せてきたときには、この砂山に逃げ上がり身を守った。古来より津波や高潮による海岸災害を度々引き起こし、沿岸の住民を脅かしてきたことから、先人たちは「お助け山」とも呼び、山が低くならないように大切に守ってきた。

○波小僧：その昔漁師の網にかかった得体の知れない怪物が、自分を助けてくれるよう漁師と掛け合い、太鼓の音（波の音）で天気の変わることを報せるようになったという言い伝えで、遠州七不思議の一つに数えられるこの波の音は海鳴りとも言い、海鳴りが聞こえる方向から天気を予知することができるというもの

○亀の松：その昔大津波が浅羽の村を襲ったとき、沖に流された母親がウミガメに姿を変え、わが子を救ったと伝えられているもので、父親が墓に植えたという松はその姿から亀の松と呼ばれ、浅羽の海岸にある。

○晴明塚：稀代の知者・陰陽師として知られる安倍晴明が、今の大須賀の地にやって来た際、村人は津波封じを懇願した。晴明は海岸に来て小豆色の石塚を築いて祈祷を行って以来、この地に津波の恐怖はなくなったというもの。

○江戸行き地蔵：米津の海岸に紀州藩の御用船が遭難し、村人は救助にあたったが、御用船の役人は「積荷が不足している」として、組頭六人が犯人となり、江戸に出向き、処刑されたことから、その供養のためつくられた石地蔵。

（資料：とよはしの歴史、渥美半島一郷土理解のための 23 章一県立福江高校 東三河めぐり、さんさん（渥美町勢要覧）、「東観音寺古境内図」（日本の塔婆より）、「大須賀町誌」（大須賀町，昭和 55 年 3 月）、「広報はままつ特集号 遠州灘」（浜松市役所，1998 年 12 月）等）



亀塚(福田町観音寺)



浜おり(浜の砂を敷いた祠)



命山(浅羽町中新田)



波小僧のモニュメント(浜岡町)



亀の松(浅羽町)



晴明塚(大須賀町)



江戸行き地蔵(浜松市)

○波小僧：その昔漁師の網にかかった得体の知れない怪物が、自分を助けてくれるよう漁師と掛け合い、太鼓の音（波の音）で天気の変わることを報せるようになったという言い伝えで、遠州七不思議の一つに数えられるこの波の音は海鳴りとも言い、海鳴りが聞こえる方向から天気を予知することができるというもの

○亀の松：その昔大津波が浅羽の村を襲ったとき、沖に流された母親がウミガメに姿を変え、わが子を救ったと伝えられているもので、父親が墓に植えたという松はその姿から亀の松と呼ばれ、浅羽の海岸にある。

○晴明塚：稀代の知者・陰陽師として知られる安倍晴明が、今の大須賀の地にやって来た際、村人は津波封じを懇願した。晴明は海岸に来て小豆色の石塚を築いて祈祷を行って以来、この地に津波の恐怖はなくなったというもの。

○江戸行き地蔵：米津の海岸に紀州藩の御用船が遭難し、村人は救助にあたったが、御用船の役人は「積荷が不足している」として、組頭六人が犯人となり、江戸に出向き、処刑されたことから、その供養のためつくられた石地蔵。

（資料：とよはしの歴史、渥美半島一郷土理解のための 23 章一県立福江高校 東三河めぐり、さんさん（渥美町勢要覧）、「東観音寺古境内図」（日本の塔婆より）、「大須賀町誌」（大須賀町，昭和 55 年 3 月）、「広報はままつ特集号 遠州灘」（浜松市役所，1998 年 12 月）等）



江戸行き地蔵(浜松市)



亀塚(磐田市観音寺)



亀の松(袋井市)



大野命山(袋井市)



晴明塚(掛川市)



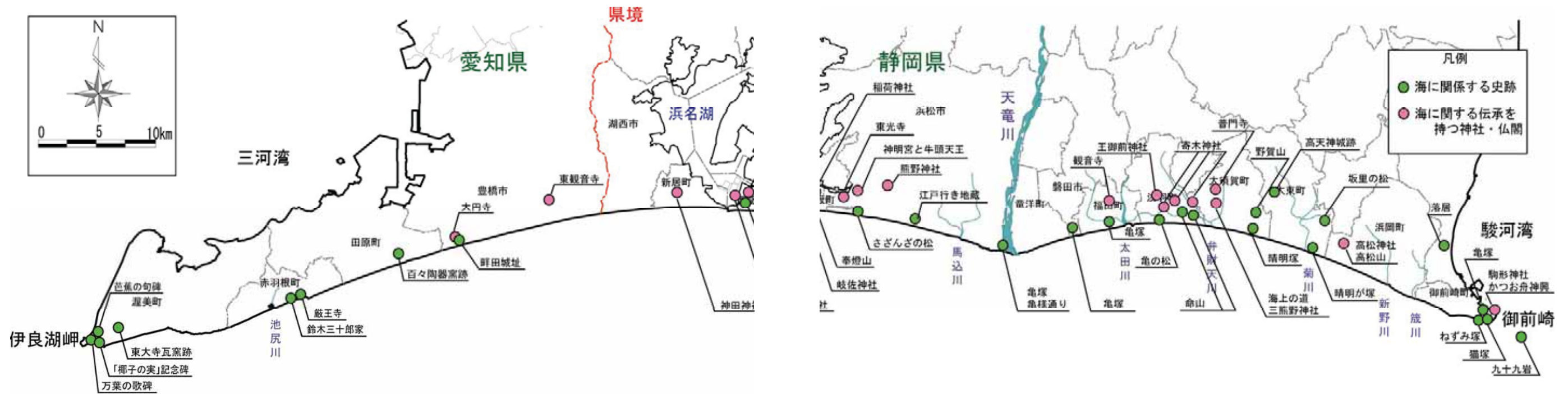
波小僧のモニュメント(御前崎市)

○「平成の命山」

津波や高潮による悲劇を繰り返すまいと、江戸時代に村人たちによって築かれた避難用の高い塚が袋井市に 2 箇所あり、今日まで住民の命を救う「命山」として語り継がれている。東日本大震災後、この「先人の知恵」を受け継ぎ、津波対策として新たに「平成の命山」を袋井市が静岡県と協力し整備した。



平成の命山(袋井市)



出典：「季刊静岡の文化第45号」（財団法人静岡県文化財団，1996年），
 「新版遠江の伝説」（小山枯柴，1995年），「静岡県海の民俗史—
 黒潮文化論—」（静岡県民俗芸能研究会，1988年）他

図 1.1.8 遠州灘沿岸の史跡等分布図

変更記載内容（案）



出典：資料：とよはしの歴史、渥美半島—郷土理解のための23章—県立福江高校 東三河めぐり、
 さんさん（渥美町勢要覧）、「東観音寺古境内図」（日本の塔婆より）

※行政区域は、「国土数値情報 行政区域データ（平成26年度）」による。

図 1.1.8 遠州灘沿岸の史跡等分布図

② 人口・産業

遠州灘沿岸の人口は、ここ数年概ね横ばいから微減傾向にある。また、産業関係の出荷額・生産額は、全国あるいは各県内において上位を占める市町が多い。

沿岸に位置する市町（4市15町）の平成13年10月における総人口は、約131万人であり、人口の多い市町として、浜松市の約59万人を筆頭に豊橋市の約37万人、磐田市の約9万人などがあげられる。

産業について工業は、かつて浜松藩等が奨励した砂地での綿花栽培により織物が盛んであったことなどから、織り機を中心とする機械産業が発達し、それがもとで発展した自動車や自動二輪等の輸送機械が中心となっている。平成13年の製造品出荷額は、豊橋市及び田原町が1兆円（豊橋市：県内8位（約1兆円）、田原町：県内3位（約1.7兆円））を超えている。また、浜松市が2兆円で県内1位（約2兆円）、湖西市及び磐田市が1兆円（湖西市：県内3位（約1.3兆円）、磐田市：県内4位（約1.2兆円））を超えている。



農業は、豊川用水の完成（昭和43年）により得られた水と遠州灘の温暖な気候を活かしたメロンや電照菊等の施設園芸や、薩摩藩の船が漂着したことにより栽培方法が伝えられたとされるサツマイモ（芋切り干し）等が中心となっている。平成12年の農業粗生産額は、豊橋市が全国1位（529億円）、渥美町が全国2位（420億円）、田原町が県内3位（216億円）、赤羽根町が県内4位（137億円）を占める全国有数の農業生産地となっており、浜松市が県内1位（297億）、磐田市が県内14位（70億）、湖西市が県内15位（69億）となっている。

注）静岡県の農業粗生産額の数値は農業産出額



② 人口・産業

遠州灘沿岸の人口は、ここ数年概ね横ばいから微減傾向にある。また、産業関係の出荷額・生産額は、全国あるいは各県内において上位を占める市町が多い。

沿岸に位置する市町（8市）の平成26年10月における総人口は、約168万人であり、人口の多い市町として、浜松市の約79万人を筆頭に豊橋市の約37万人、磐田市の約16万人、掛川市の約11万人、袋井市の約9万人、田原市約6万人となっている。

産業について工業は、かつて浜松藩等が奨励した砂地での綿花栽培により織物が盛んであったことなどから、織り機を中心とする機械産業が発達し、それがもとで発展した自動車や自動二輪等の輸送機械が中心となっている。

平成24年の製造品出荷額等は、豊橋市及び田原町が1兆円（豊橋市：県内11位（約1.1兆円）、田原町：県内3位（約1.8兆円））を超えている。

また、浜松市が2.1兆円で県内1位、磐田市、湖西市及び掛川市が1兆円（磐田市：県内2位（約1.7兆円）、湖西市：県内4位（約1.7兆円）、掛川市：県内6位（約1.1兆円））を超えている。



農業は、豊川用水の完成（昭和43年）により得られた水と遠州灘の温暖な気候を活かしたメロンや電照菊等の施設園芸や、薩摩藩の船が漂着したことにより栽培方法が伝えられたとされるサツマイモ（芋切り干し）等が中心となっている。平成18年の農業産出額は浜松市が全国4位（541億円）で、全国有数の農業生産地となっている。また、農業産出額は掛川市が県内3位（204億円）、磐田市が同5位（137億円）となっている。



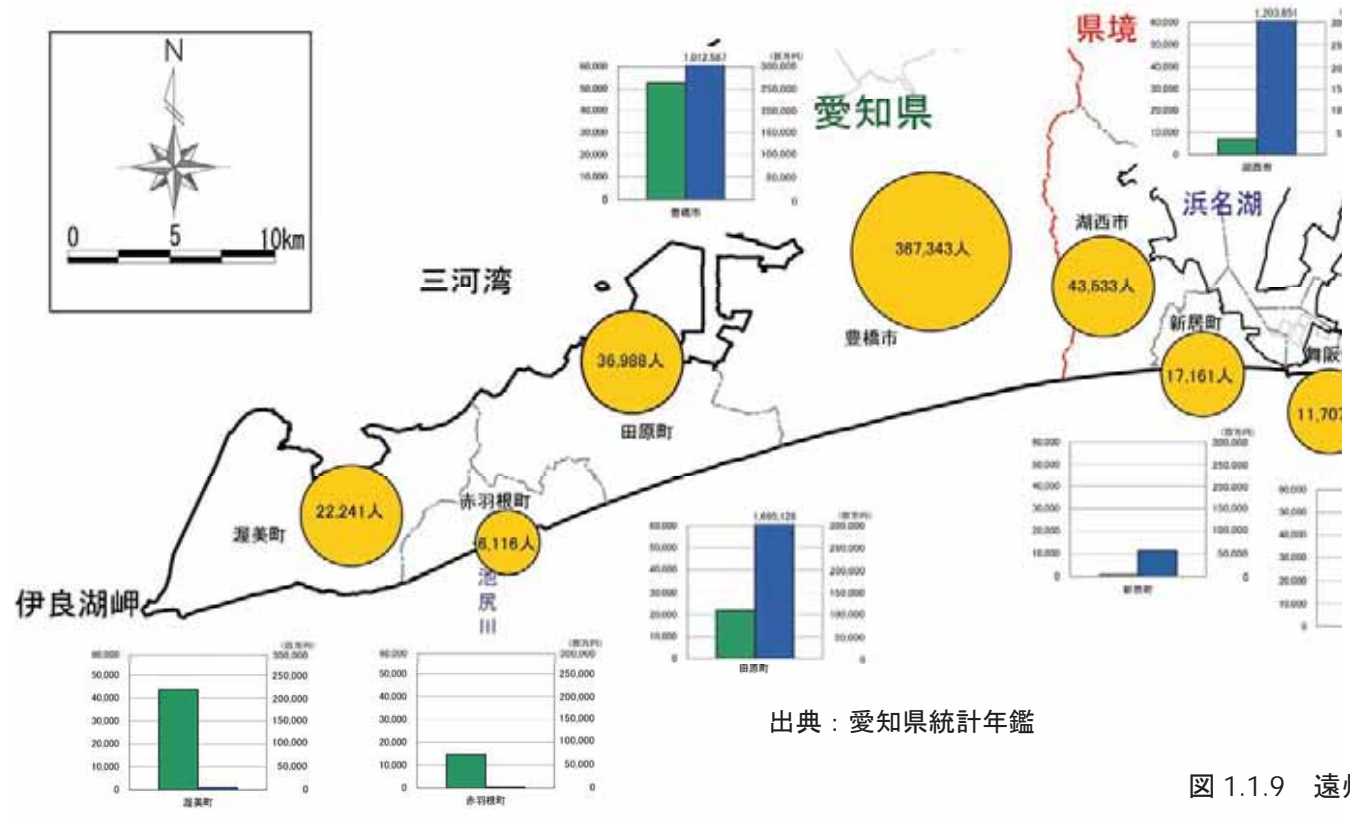
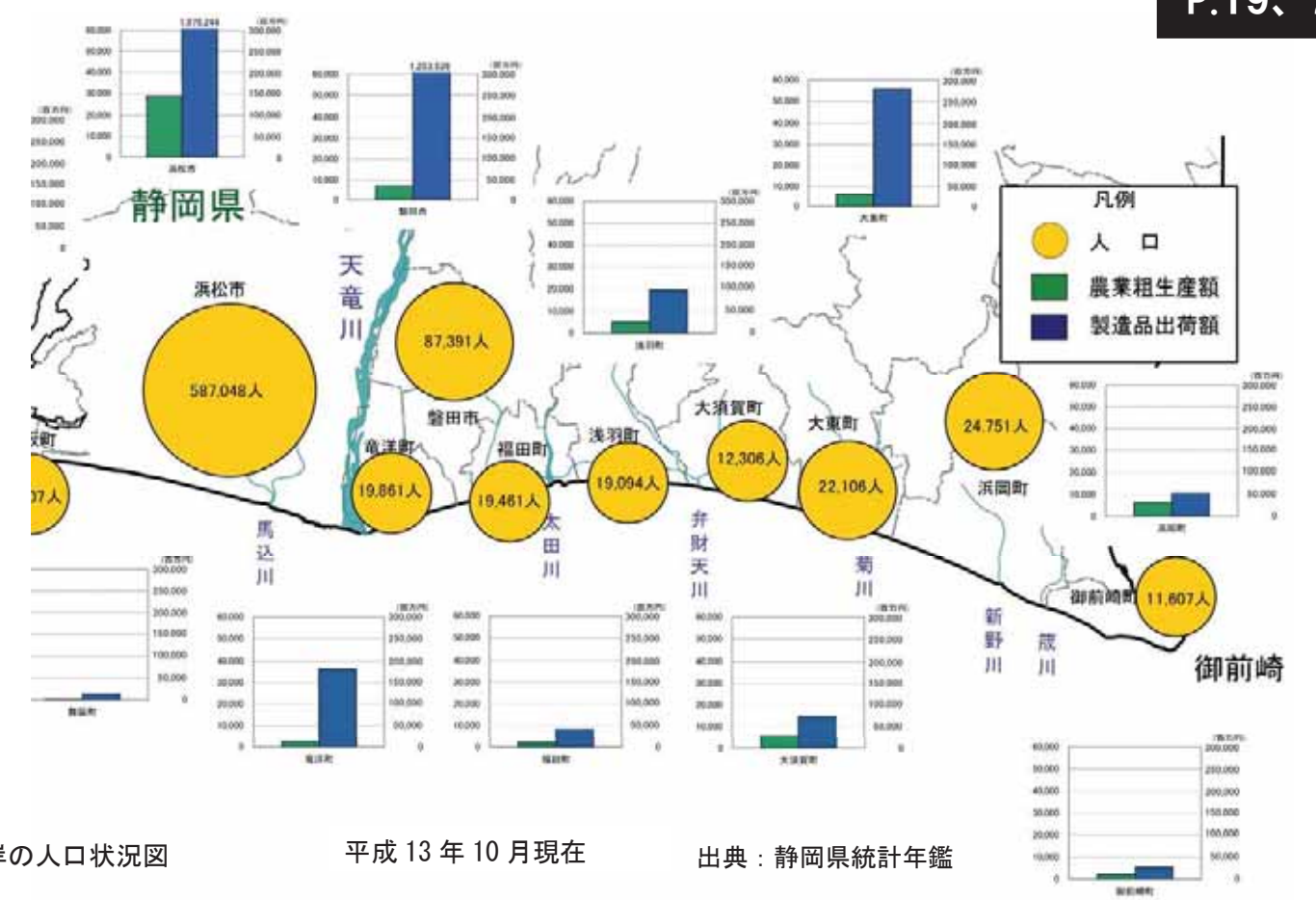


図 1.1.9 遠州灘沿岸の人口状況図



平成 13 年 10 月現在

出典：静岡県統計年鑑

変更記載内容 (案)

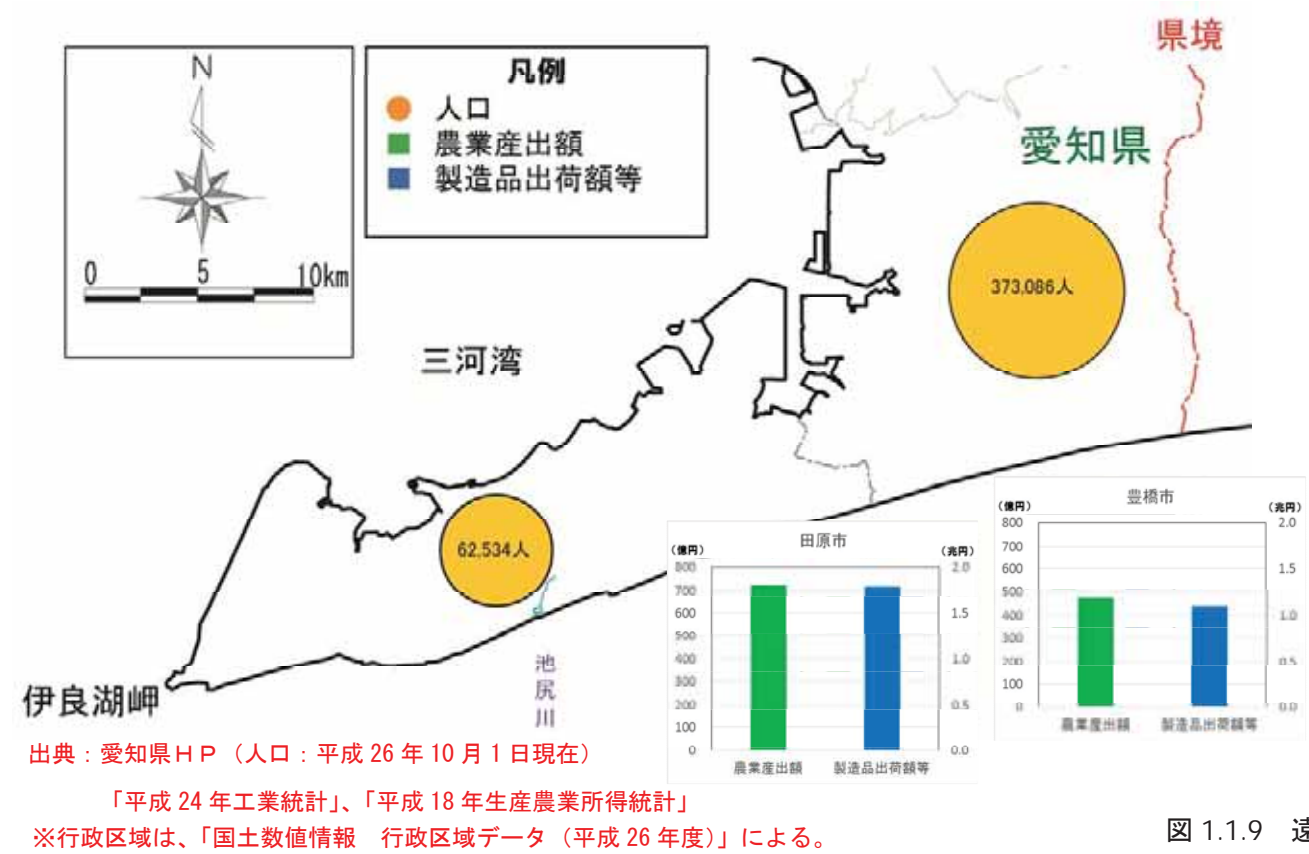
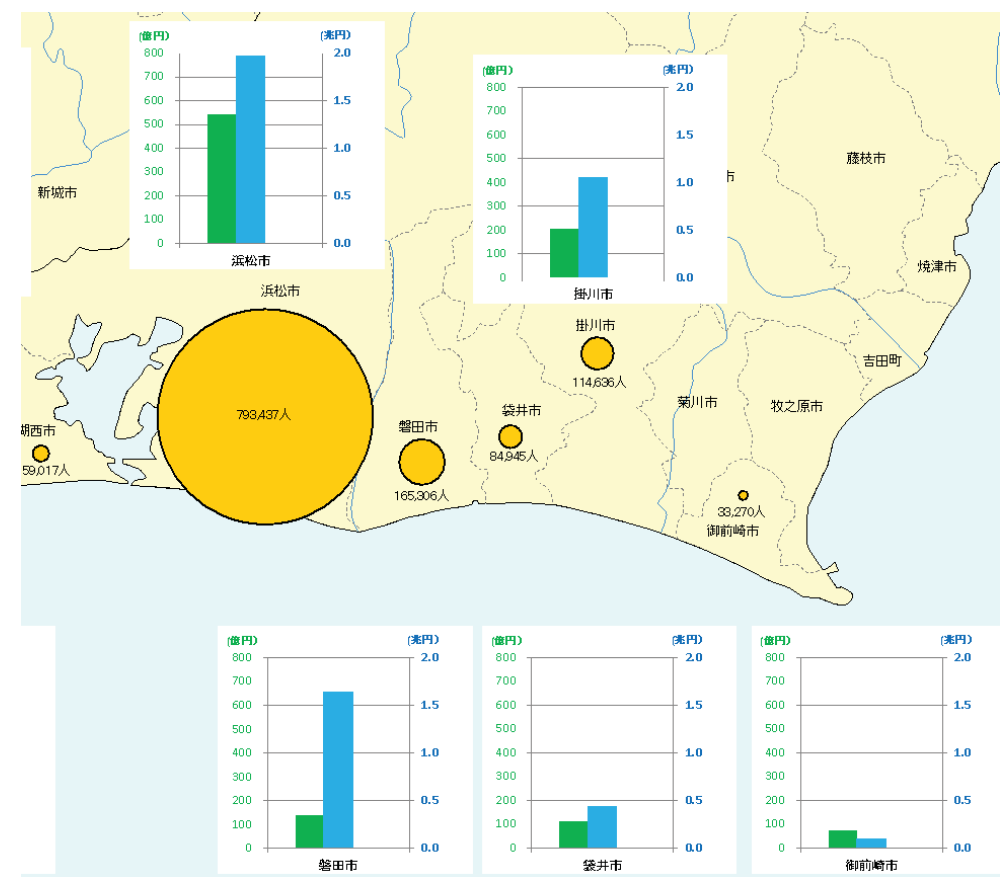


図 1.1.9 遠州灘沿岸の人口状況図



資料：人口静岡県ホームページ

農業産出額：農林水産省 生産農業所得統計 平成 18 年※市町村区分は平成 18 年まで公開

製造品出荷額：経済産業省 工業統計調査 平成 23 年

③ 漁港・港湾

遠州灘沿岸の漁港は西から、赤羽根漁港（第4種）、高豊漁港（第1種）、^{ふたがわ}二川漁港（第1種）、舞阪漁港（第3種）、^{ふくで}福田漁港（第4種）の計5箇所があり、赤羽根漁港と福田漁港は、荒天時には漁船やその他の船舶が避泊利用している避難港でもある。なお漁業は、小型底びき網、まき網、地びき網、船びき網、刺し網を中心として行われている。また、港湾は、地方港湾である浜名港の1箇所がある。

赤羽根漁港は、昭和25年頃その必要性の気運が高まり、漁港指定や避難港の指定を受けて建設された。これは、愛知県の漁業は内湾を中心に発展してきたが、外洋漁場の開発が求められ、その拠点となる港が必要であったこと、港の沖合において遭難事故が相次いでいたこと、さらに、沖合では内湾に根拠地を有する漁船も操業を行っており、これらの船の補給や避難の港が必要であることなどから、池尻川河口部を掘込み漁港として建設を進めてきた。同時に、沖合での漁場を良好なものとするため、昭和33年より魚礁設置による漁場造成を積極的に行うなど、漁業の振興に力を入れている。主な魚種はシラスで、平成13年には利用漁船337隻、陸揚量555トン、陸揚金額約3億2,000万円となっている。



昭和28年に漁港指定された二川漁港、高豊漁港は、地びき網、刺し網漁業を中心とした操業が行われており、主な魚種はアジ類・イワシ・コノシロ・スズキ・ボラ・貝類である。平成13年の各漁港での陸揚量（属地）と陸揚金額（属地）は、二川漁港で27トン・1,200万円、高豊漁港で19トン・800万円となっている。

浜名湖内の舞阪漁港および福田漁港では、シラス・アジ・タイ等の沿岸漁業、カツオ等の近海漁業が行われており、特にシラスは全国有数の生産地となっている。平成13年での利用漁船は、舞阪漁港が768隻、福田漁港が156隻、陸揚量は舞阪漁港が5,246トン、福田漁港が1,397トン、陸揚金額は舞阪漁港が約25億9,000万円、福田漁港で約9億4,000万円となっている。



浜名港は、今切口周辺と浜名湖の一部が港湾区域となっており、漁業や観光などの基盤としての役割を担っている。

静岡県温水利用センター（浜岡町）は、浜岡原子力発電所の温排水を有効利用したマダイ・ヒラメ・アワビ等の養殖研究施設である。舞阪町・新居町で進められている「浜名港マリンタウンプロジェクト」は、生活空間の基盤づくり・浜名湖観光の拠点づくり・人々の憩いと交流のウォーターフロントづくり・自然環境と共生した港づくりをめざすプロジェクトである。

③ 漁港・港湾

遠州灘沿岸の漁港は西から、赤羽根漁港（第4種）、高豊漁港（第1種）、^{ふたがわ}二川漁港（第1種）、舞阪漁港（第3種）、^{ふくで}福田漁港（第4種）の計5箇所があり、赤羽根漁港と福田漁港は、荒天時には漁船やその他の船舶が避泊利用している避難港でもある。なお漁業は、小型底びき網、まき網、地びき網、船びき網、刺し網を中心として行われている。また、港湾は、遠州灘で唯一の港湾である浜名港（地方港湾）1箇所である。

赤羽根漁港は、昭和25年頃その必要性の気運が高まり、漁港指定や避難港の指定を受けて建設された。これは、愛知県の漁業は内湾を中心に発展してきたが、外洋漁場の開発が求められ、その拠点となる港が必要であったこと、港の沖合において遭難事故が相次いでいたこと、さらに、沖合では内湾に根拠地を有する漁船も操業を行っており、これらの船の補給や避難の港が必要であることなどから、池尻川河口部を掘込み漁港として建設を進めてきた。同時に、沖合での漁場を良好なものとするため、昭和33年より魚礁設置による漁場造成を積極的に行うなど、漁業の振興に力を入れている。**主な魚種はシラスで、平成24年には利用漁船161隻、陸揚量551トン、陸揚金額約3億6,900万円となっている。**



昭和28年に漁港指定された二川漁港、高豊漁港は、地びき網、刺し網漁業を中心とした操業が行われており、主な魚種はアジ類・イワシ・コノシロ・スズキ・ボラ・貝類である。**平成24年の各漁港での陸揚量（属地）と陸揚金額（属地）は、二川漁港で6トン、高豊漁港で3トンとなっている。**

舞阪漁港および福田漁港では、シラス・アジ・タイ等の沿岸漁業、カツオ等の近海漁業が行われており、特にシラスは全国有数の水揚地となっている。**平成23年の各漁港での陸揚量（属地）と陸揚金額（属地）は、舞阪漁港で3,733トン・2.0億円、村楠漁港で3,181トン・1.1億円、福田漁港で1,882トン・1.0億円となっている。**



浜名港は、今切口周辺と浜名湖の一部が港湾区域となっており、漁業や観光などの基盤としての役割を担っている。また、浜名湖の湖岸が織りなす優れた景観、静穏な水面を有し海洋性レクリエーションへの適正から、魚釣り施設や港湾緑地等が整備され、多くの観光客が訪れている。



出典：「愛知県東三河建設事務所管内図」



図 1.1.10 遠州灘沿岸の漁港・港湾分布図

出典：「静岡県河川海岸図」

変更記載内容（案）



※行政区画は、「国土数値情報 行政区画データ（平成26年度）」による。



図 1.1.10 遠州灘沿岸の漁港・港湾分布図

④ 交通

遠州灘沿岸の交通は、主要道路では国道1号、42号、150号、259号などがあり、さらに、沿線を広範に結ぶ大規模自転車道である太平洋自転車道の1区間として、渥美豊橋自転車道および浜松御前崎自転車道が整備されている。このほか、鉄道やフェリーといった交通機関があるが、海岸へのアクセス性は、全体で見るとあまりよくない状況にある。

海岸へのアクセス状況をみると、愛知県域の道路では渥美半島の三河湾に沿って豊橋～伊良湖岬を結ぶ国道259号と、静岡県側の国道1号から遠州灘に沿って伊良湖岬に至る国道42号があげられる。遠州灘沿岸では国道42号が移動軸になっており、海岸へは国道42号から随所にアクセス可能な道があるものの入口が解りにくく、駐車場も少ないといった状況にある。

静岡県域の道路では、海岸線にほぼ平行して国道150号・国道1号が走っている。なお、静岡県域においても、海岸における駐車場は、海岸利用者に比べ不足している状況にある。



鉄道は、静岡県ではJR東海道新幹線・JR東海道本線・遠州鉄道・天竜浜名湖鉄道の4路線があり、このうち、JR東海道本線においては浜名湖今切口奥に駅があるが、全般に海岸へのアクセスとしての利便性はあまりよくない。また、愛知県の渥美半島において、新豊橋駅と三河田原駅を結ぶ豊橋鉄道渥美線が走っている。

鉄道以外の伊良湖までのアクセスとして、豊橋駅と三河田原駅からバスが運行している他、隣接する伊良湖港には鳥羽、師崎、河和とのフェリー等が就航しており、渥美半島へは海上交通によるアクセスもできるが、遠州灘沿岸への直接的な海上交通アクセスはない。



④ 交通

遠州灘沿岸の交通は、主要道路では国道1号、42号、150号、259号などがあり、さらに、沿線を広範に結ぶ大規模自転車道である太平洋自転車道の1区間として、渥美豊橋自転車道および浜松御前崎自転車道が整備されている。このほか、鉄道やフェリーといった交通機関があるが、海岸へのアクセス性は、全体で見るとあまりよくない。

海岸へのアクセス状況をみると、愛知県域の道路では渥美半島の三河湾に沿って豊橋～伊良湖岬を結ぶ国道259号と、静岡県側の国道1号から遠州灘に沿って伊良湖岬に至る国道42号があげられる。遠州灘沿岸では国道42号が移動軸になっており、海岸へは国道42号から随所にアクセス可能な道があるものの入口が解りにくく、駐車場も少ないといった状況にある。



鉄道は、静岡県ではJR東海道新幹線・JR東海道本線・遠州鉄道・天竜浜名湖鉄道の4路線があるが、JR東海道本線においては浜名湖今切口奥に一駅がある程度でアクセス性は高くない。

愛知県の渥美半島において、新豊橋駅と三河田原駅を結ぶ豊橋鉄道渥美線が走っている。鉄道以外の伊良湖までのアクセスとして、豊橋駅と三河田原駅からバスが運行している他、隣接する伊良湖港には鳥羽、師崎、河和とのフェリー等が就航しており、渥美半島へは海上交通によるアクセスもできるが、遠州灘沿岸への直接的な海上交通アクセスはない。



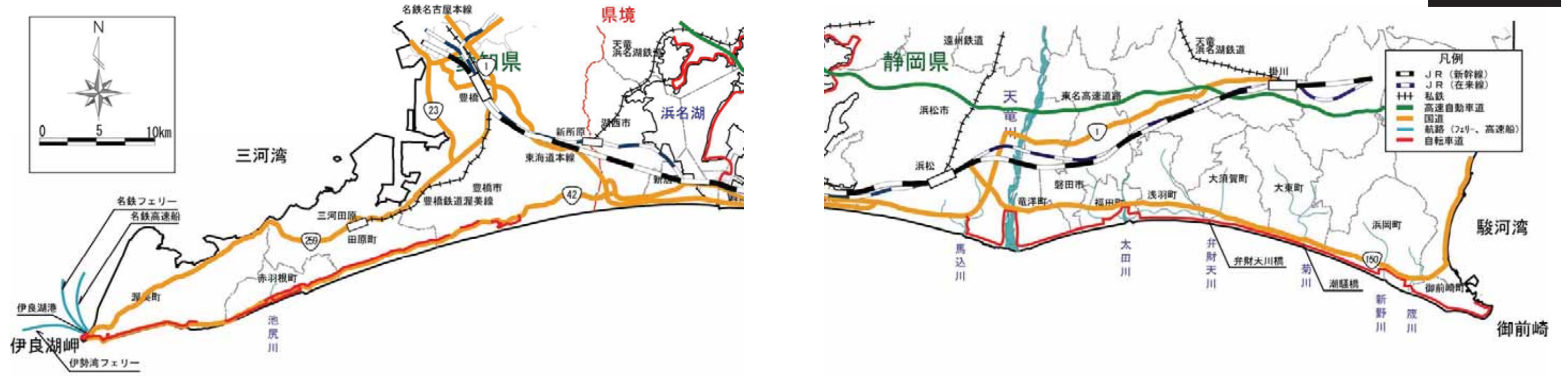
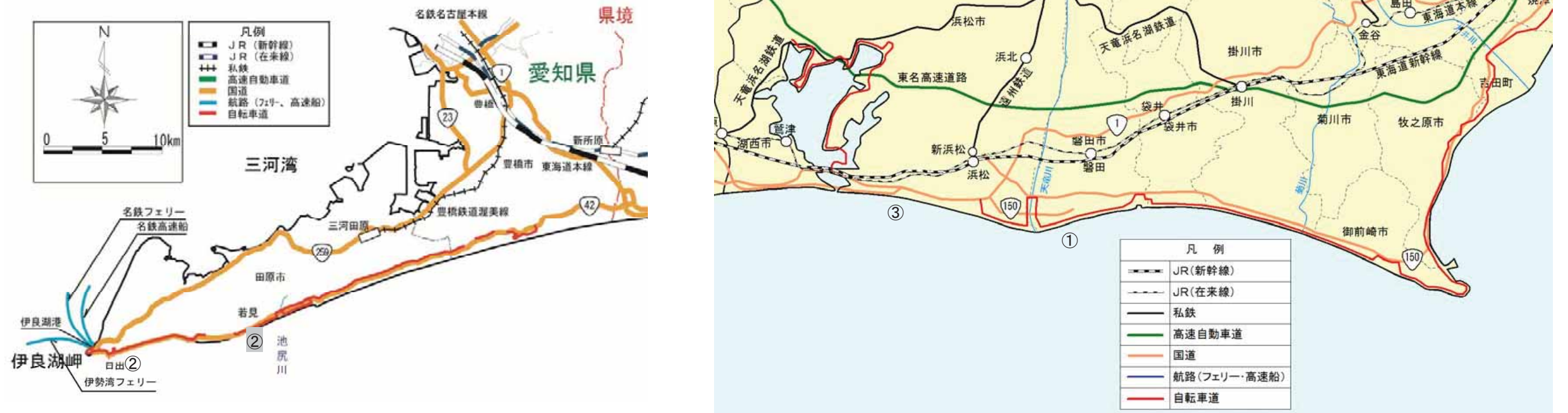


図 1.1.11 遠州灘沿岸の交通網図

変更記載内容 (案)



※行政区域は、「国土数値情報 行政区域データ（平成 26 年度）」による。

図 1.1.11 遠州灘沿岸の交通網図